

幻覚妄想といえば、精神医療では、まずは消すべきもの。固定化してしまうから「幻覚妄想については聞いてはいけない」というのが長い間の習慣、そして、教科書でした。ところが、北海道浦河の「べてるの家」では、みんなが「へえ～」と聞く。もっともウケた幻覚妄想が表彰されます。こんな「掟破り」が、今、新しい「常識」に登録されつつあります。それだけでなく、精神医療を飛び超えて、対人支援一般の枠組みさえも更新しつつあります。

## ■ I 幻覚妄想ってどうやって聞いたらいいんですか？

——「へえー」がひらくアナザーワールド

- 1 その神様ってどのへんにいるんですか？
- 2 殺人鬼の山姥が50人も？！
- 3 私たちは「良性の声」になりたいものです
- 4 オープンダイアローグは波乗りです

## ■ II 私はこんなふうを考えてきた

——常識は後からやってくる

- 1 精神科の病気って何？
- 2 「人と問題を分ける」の深い意味
- 3 なぜトラウマにならないのか？
- 4 普通の人の延長線上で考える

## ■ III いつも土手の上から眺めていた

——向谷地家の秘密

- 1 家族のこと
- 2 三男の発病
- 3 そういう社会であり、時代だった
- 4 助五郎おじさんと分厚い本
- 5 土手の上の原体験

## ■ IV [大澤真幸特別寄稿

〈知〉はいかにして〈真実〉の地位に就くのか？

——当事者研究の奇蹟

- 1 病気が出る治療法？
- 2 当事者研究
- 3 〈知〉が〈真実〉として機能する
- 4 〈知〉と〈真実〉の必然的不一致
- 5 言語行為——支配のための発話
- 6 向谷地生良という方法
- 7 言語行為以前の言語の基層の反復として